

県央・林業部トピックス（5月号）

三瓶さくらの里づくり20周年記念式典が開催されました

令和7年4月6日（日）に大田市三瓶町で桜の里づくり事業20周年記念式典と、併せて三瓶さくら祭りが開催されました。式典では大田市長をはじめ、応援企業・団体や行政の関係者が集まり20周年のあゆみを振り返りました。三瓶桜の里づくりでは、平成17年に三瓶東地区一般農道が開通したことに記念して開始され、桜の植栽や管理、休憩所の整備といった事業を行っています。現在、桜の総本数はエドヒガンを中心に約6,200本となり、春には多様な品種の桜が楽しめます。近年では植栽した桜が大きくなってきたため、桜の間伐を行い、その材を活用したきのこの原木づくりといった、特産品の制作も行っています。

式典と同会場では今年で10回目となるさくら祭りが開催され、地元飲食店の出店や全長15kmのウォーキングイベントなど、大変な賑わいとなりました。

県では県民参加の森づくり事業（旧みーもの森づくり事業）を活用し、展望台にある木柵や四阿の設置を支援しています。本事業では水と緑の森づくり税を財源とし、緑豊かな森を地域自らのアイデアと参加で育み、次世代に引き継ぐことを目的とした活動に対する支援を行っています。例年提案募集を1月ごろに行っておりますので、皆様のアイデアをお待ちしております！

